

令和3年度「全国学力・学習状況調査」の結果概要について

宇都宮市立 篠井小学校

家庭や地域から「信頼される学校」であるためには、学校の状況や児童の実態を保護者や地域の方々に十分御理解いただく必要があります。その上で、家庭や地域と一体となって児童を育てることが大切であると考えています。

こうした考えから、令和3年度「全国学力・学習状況調査」における本校児童の学力や学習状況の概要について、以下のとおり公表します。

また、調査結果は、学習指導の工夫・改善に役立てることが大切ですので、調査結果の分析、指導の改善策などを併せて掲載します。

【調査の概要】

1 目的

義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、全国的な児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図るとともに、学校における児童生徒への教育指導の充実や学習状況等の改善等に役立てる。さらに、そのような取組を通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。

2 調査期日

令和3年5月27日(木)

3 調査対象

小学校 第6学年(国語, 算数, 児童質問紙)

中学校 第3学年(国語, 数学, 生徒質問紙)

4 本校の参加状況

① 国語 19人

② 算数 19人

5 留意事項

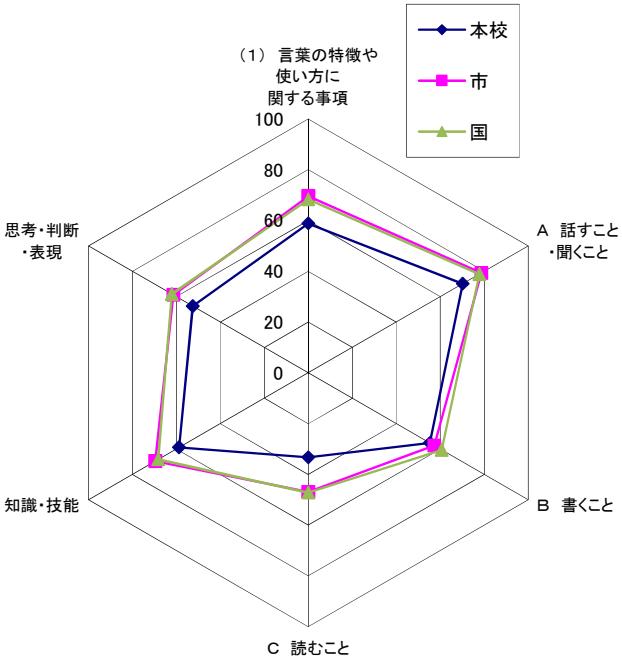
- (1) 本調査は、対象となる学年が限られており、実施教科が国語、算数の2教科のみであることや、必ずしも学習指導要領全体を網羅するものでないことなどから、本調査の結果については、児童が身に付けるべき学力の特定の一部であることに留意することが必要となる。
- (2) 本校の傾向等を分かりやすく示すために分類・区分別の平均正答率などを公表した。
- (3) 平均正答率の数値は調査結果のすべてを表すものではないため、「本年度の状況」、「今後の指導の重点」などの分析を併せて記載した。

宇都宮市立篠井小学校第6学年【国語】分類・区分別正答率

★本年度の国、市と本校の状況

【国語】

分類	区分	本年度		
		本校	市	国
領域等	(1) 言葉の特徴や使い方にに関する事項	58.8	69.6	68.3
	(2) 情報の扱い方にに関する事項			
	(3) 我が国の言語文化に関する事項			
	A 話すこと・聞くこと	70.2	78.7	77.8
	B 書くこと	55.3	57.3	60.7
	C 読むこと	33.3	46.9	47.2
観点	知識・技能	58.8	69.6	68.3
	思考・判断・表現	52.6	61.4	62.1
	主体的に学習に取り組む態度			



★指導の工夫と改善

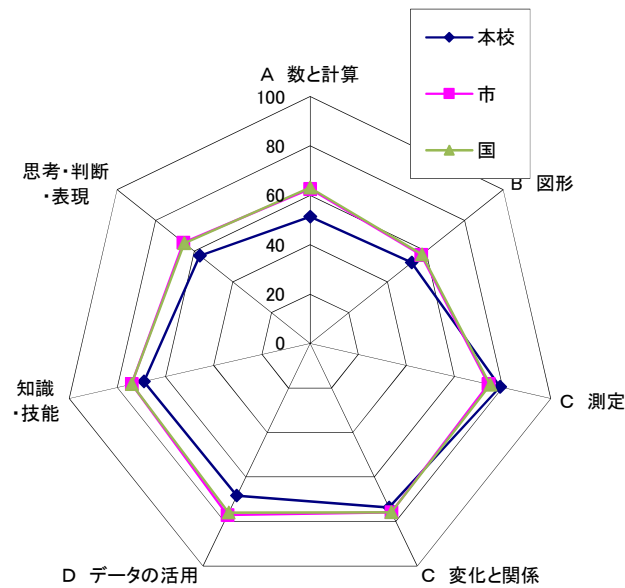
分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
(1) 言語の特徴や使い方にに関する事項	●平均正答率は58.8%で、国の正答率を下回った。 ●文章中のひらがなを漢字で直す問題の正答率は、国の正答率を下回った。 ○修飾と被修飾との関係を捉える問題の正答率は、国の正答率をやや上回った。	○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの ・漢字について、訓読み、音読み、部首、書き順、熟語などについて一度に学習するノートの使い方など研究して全学年で取り入れるなど、学習方法の改善を図る。 ・漢字については、当該学年で習得すべく漢字だけでなく、すでに学習したものを繰り返し学習する機会を設ける。特に文章表現の中で、学習できるよう工夫する。
A 話すこと・聞くこと	●平均正答率は70.2%で、国の正答率を下回った。 ●筆者の意図を理解することや、目的に応じて資料を用いながら内容が明確になるようにスピーチを考える問題の正答率は国の正答率を下回っており、課題がある。	「話すこと・聞くこと」、「書くこと」、「読むこと」のいずれにも課題があることが分かった。これらは互いに深く関わり合うものであることから、次の取組により一体的に資質・能力を向上させる。 ・これらの「思考力、判断力、表現力等」には、指示語や文章全体の構成などに関する知識が不可欠であることを踏まえ、指導に当たっては、こうした知識の習得に特に留意する。さらに、生きて働く知識となるよう、考えさせ、気づかせることによって習得させる。 ・各題材において、文章全体の構成などについて筆者の意図を見出す目的に応じて必要な情報を見つけ出す問いの答えを文章中の言葉を使い要約するといった学習活動を取り入れ、適切にフィードバックする。
B 書くこと	●平均正答率は55.3%で、国の正答率を下回った。 ●自分の主張が明確に伝わるように、文章全体の構成や展開を考える問題の正答率は57.9%、目的や意図に応じて、自分の考えが伝わるように書く問題の正答率は52.6%で、いずれも国の正答率をやや下回った。	・「聞くこと」や「読むこと」で学んだことを生かして話したり書いたりする機会を設け、適切にフィードバックする。その際、児童同士の相互評価の機会も設ける。 ・国語科で学んだこれらの資質・能力を他教科等の学習で発揮させる機会を設ける。
C 読むこと	●平均正答率は33.3%で、国の正答率を下回った。 ●文章全体の構成を捉える問題の正答率は68.4%、目的に応じて、必要な情報を見つけ出し、まとめて書く問題の正答率はいずれも15.8%であり、国の正答率を下回った。	

宇都宮市立篠井小学校第6学年【算数】分類・区分別正答率

★本年度の国、市と本校の状況

【算数】

分類	区分	本年度		
		本校	市	国
領域	A 数と計算	51.3	62.6	63.1
	B 図形	52.6	57.5	57.9
	C 測定	78.9	74.1	74.8
	C 変化と関係	73.7	75.8	75.9
	D データの活用	68.4	77.1	76.0
観点	知識・技能	69.0	74.1	74.1
	思考・判断・表現	57.1	65.6	65.1
	主体的に学習に取り組む態度			



★指導の工夫と改善

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
A 数と計算	●平均正答率は51.3%で、国の正答率を下回った。 ○割り算を使い、日常生活の場面の問題を解決する問題の正答率は78.9%で、国の正答率とほぼ同じであった。 ●図から2つの道のりの差を求める式を立てたり説明をしたりして答えを求める問題の正答率は52.6%で、国の正答率を下回った。 ●割られる数と割る数を見極めて割り算の式を立てる問題の正答率は31.6%で、国の正答率を大きく下回った。	・次の指導を一層充実させる ・日常生活に関わる問題を設定する。 ・式を立てる場面の学習を充実させる。 (学び合いで、互いの立式の意図を説明し合う等) ・図や式を使い説明できるよう、ノート指導を充実させる。 ・特に分数と小数の計算に関わる学習の改善を図る。 ・「日常生活に関わる問題を設定」する際には、全国学力調査やとちぎっ子学習状況調査の問題などを参考にする。
B 図形	●平均正答率は52.6%で、国の正答率をやや下回った。 ○2つの三角形を組み合わせた異なる図形の面積を比べる問題の正答率は89.5%で、国の正答率を大きく上回った。 ●直角三角形の面積を求める問題の正答率は47.4%で、国の正答率をやや下回った。	・それぞれの図形を学習する学年・単元において、既習の測定法や公式などを活用しながら多様な求積法を見出させる授業に、十分な時間をかけて取り組む。その際、「角」「辺」「直角」「平行」などの言葉や図形の名称を理解させ、筋道を立てて説明できるように指導していく。 ・既習の内容について、繰り返し復習し、定着を図る。
C 測定	○平均正答率は78.9%で、国の正答率をやや上回った。 ○時刻を求める問題の正答率94.7%、複数の図形を組み合わせた図形の面積を求める問題の正答率は89.5%で、国の正答率を上回った。	・長さやかさを測定する学習(単位換算を含む)では、初出の学年及び単元において、教材として具体物等を使うなどして児童が体験を通して学べるようにする。 ・既習の内容について、繰り返し復習し、定着を図る。
C 変化と関係	○平均正答率は73.7%で、国の正答率とほぼ同程度であった。 ○道のりと時間の関係を見出し、答えを求める問題の正答率は94.7%で、国の正答率を上回った。 ●単位(時間)あたりの変化の量を求める式を立てたり、2つを比べる問題では、国の正答率をやや下回った。	・単位時間あたりの変化、単位量あたりの変化及びそれらの比較について学習する際、生活場面に即した問題を設け、「図」と「式」と「ことば」が結びつくように理解させる。 ・特に、「何を計算しようとして式を立てているのか」など、見通しを立てながら問題解決を図るよう指導する。
D データの活用	●平均正答率は68.4%で、国の正答率を下回った。 ●棒グラフを読み取る問題の正答率は89.5%、78.9%、帯グラフから読み取ったことを記述する問題の正答率は42.1%で、いずれも国の正答率を下回った。 ●集団の特徴を捉えるために必要なデータを選択する問題の正答率は68.4%で、国の正答率をやや下回った。	・グラフや表を読み取る力とこれらを作成する力には深い相関があることに留意し、グラフや表を読み取る学習を次のように丁寧に指導するとともに、データからグラフや表を作成する機会を増やす。 (グラフや表を読み取る学習) ・どのようなデータをグラフや表にまとめているのか(タイトルや縦・横軸に着目して) ・グラフや表から何が読み取れるか(多・少、増・減等) ・読み取ったことから、何が分かるのか ・他の教科等で、グラフや表を読み取ったり作成したりする学習を積極的に取り入れ、十分に時間を割いて実施する。

宇都宮市立篠井小学校 第6学年 児童質問紙

★傾向と今後の指導上の工夫	○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの
○「朝食を毎日食べていますか」の質問では「している(食べている)」と回答した児童が94.8%であり、国の肯定的回答の割合をやや上回った。また、起床時刻や就寝時刻もほぼ同じ時刻と回答した児童の割合がおよそ90%であった。家庭と連携し、栄養バランスのよい朝食をとることの大切さなど食育の充実に努めてきた成果と考えられる。今後も家庭と連携しながら、望ましい食習慣や生活習慣が身に付くよう指導を続ける。	
○「人が困っているときは進んで助けていますか」の質問では、肯定的回答をした児童の割合は89.7%であった。また、「いじめは、どんな理由があってもいけないことだと思いますか」の質問では、肯定的回答をした児童の割合は89.5%であった。「安心・安全な学校」をめざし、いじめ防止を核として一人一人に目を向け、支える取組の成果である。今後も、すべての児童が安心して生活できる環境を、家庭と協働して生み出していく。	
○「人の役に立つ人間になりたいと思いますか」の質問に肯定的回答をした児童の割合は100%だった。	
●「自分には、よいところがあると思いますか」の質問に肯定的回答をした児童の割合は57.9%、「将来の夢や希望を持っていますか」の質問に肯定的回答をした児童の割合は63.2%であり、ともに国を下回った。自分で目標を決めて取り組み、最後までやり遂げる体験を増やすとともに、児童のよさを認め励まし、自尊感情を一層育んでいく。	
●「学校の授業時間以外に普段(月曜日から金曜日)、1日当たりどれくらいの時間、勉強をしますか」の質問において、本校で家庭学習の時間の目安として示している「高学年は60分以上」が達成できている児童は57.9%に留まっている。保護者の協力を仰ぎ、家庭での時間の使い方を見直しさせるとともに、自主学習メニューを紹介するなど、宿題以外の勉強や読書に意欲をもって取り組めるよう指導する。	
●国語と算数の勉強について、「好きですか」の質問に肯定的回答をした児童の割合は、国語は47.3%、算数は36.9%であり、国、市を下回った。それぞれの勉強について、「大切だと思いますか」「学習したことは、将来、社会に出たときに役に立つと思いますか」の質問では、肯定的回答が多かったことから、児童がより意欲をもって取り組むため、「できた！」「分かった！」のある授業を実現するように授業の導入や展開を工夫する。	

宇都宮市立篠井小学校（第6学年）
学力向上に向けた学校全体での取組

★学校全体で、重点を置いて取り組んでいること

重点的な取組	取組の具体的な内容	取組に関わる調査結果
○だれもが「わかる」、「できる」授業により、学ぶ楽しさを味わわせ、学ぶ意欲を高める。	○「宇都宮モデル」を意識した授業を実践し、特に基礎・基本の確かな定着を図る。 ・「考え、気づき、習得する」授業の実践。 ・「習得したことを活用する問い」の設定。 ・「追究の意欲を刺激する問い」の設定。 ・児童の学習の的確な評価と、指導の改善。 ・見通しを持たせ、振り返りを行う授業により、主体的に学習する態度の育成を図る。 ・他教科等、他学年の学習との関連を図った授業の実践。（←「つながり」のある授業） ・一人一台端末の効果的な活用。	・国語については国の平均正答率を下回った。算数については、国の平均正答率をやや下回った。 ・国語と算数の勉強について、「好きですか」の質問に肯定的回答をした児童の割合は、国語は47.3%、算数は36.9%であり、国の肯定的回答率を下回った。 ・「課題の解決に向けて、自分で考え、自分から取り組んでいましたか」の質問に、肯定的回答をした児童の割合は、63.2%で、国の肯定的回答率を下回った。

★学校全体で、今後新たに重点を置いて取り組むこと

調査結果等に見られた課題	重点的な取組	取組の具体的な内容
・国語、算数の学習を苦手と感じている児童が多い。 ・成績分布に2つのピークがあり、学力の個人差が大きい。 ・国語では、「話すこと・聞くこと」、「書くこと」、「読むこと」のいずれにも課題があるが、特に「読むこと」に課題がある。 ・算数では、「数と計算」、「図形」、「データの活用」の領域に課題がある。 ・課題に対して自ら、主体的に取り組む児童の割合をさらに高める必要がある。特に、少し困難な課題に取り組む意欲を高めたい。	・だれもが「わかる」「できる」つながりのある授業の実践 ・一人一人が自信や追究の意欲をもって課題に取り組み、学びを深めるための指導の工夫 ・家庭学習の充実に向けた保護者との連携強化	○「宇都宮モデル」を意識した授業により、基礎・基本の定着を、より丁寧に指導する。 ・育成する資質・能力を明確にして授業を行う。特に、「見方・考え方」を働かせて学ぶ活動に留意して授業を組み立てる。 ・苦手な単元や重要な基礎・基本について、より時間を割いて丁寧に指導する。 ・誰もが「わかった」を実感できる問いを設定できるよう、研究し、共有する。 ・言語活動の充実留意し、学び合い、まとめや振り返りなどの論述を位置付け、適切に評価する。 ・学び合いを効果的に取り入れ、友人とつながりのある授業を行う。 ・他教科等や他学年の学習との関連を図った授業(学習内容の「つながり」に気付けさせる授業)を行う。 ・見通しを立てる活動、振り返りをしっかり位置付け、指導、評価することにより、主体的に学習に取り組む態度を育む。 ・上に書いたことを実践するに当たり、クロームブックを効果的に活用する。 ○「個に応じた指導」の一層の充実を図る。 ・習熟度別学習やティームティーチング、朝学習での個別指導など個人差への対応の充実を図る。 ・その際、AIドリルなど一人一台端末を効果的に活用する。 ○保護者と協力し、家庭学習の充実を図る。 ・学級懇談会や学年だより等を利用し、家庭学習の習慣づけと保護者による支援の重要性を伝える。